

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』第1回

現役最高幹部、命をかけた内部告発！

『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題を連載記事で告発した。本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。(オンライン有料購読にて入手・・・一部要約抜粋)

「妖怪」のプロフィール

A氏の証言を続けよう。

「もちろん、松田、葛西、井手の3氏ら『国鉄改革派』も松崎が革マル派であることは百も承知だったが、国鉄改革を推進する戦略上、彼を味方に取り込まざるを得なかった。しかし改革が成功を収めれば、彼ほど危険な存在はない。そこでJR東海やJR西日本の経営者は分割民営化後、松崎と手を切ったのです。しかし、わが社の松田さんは手を切ることができなかった。そしてこの松田さん同様、松崎と癒着し、彼らに取り込まれてしまったのが、民営化後に運輸省から国鉄再建監理委員を経て社長になった住田すみた(正二・元JR東日本会長・84歳)さんでした。JR東日本とJR東労組の癒着関係は住田 松田体制時に確立されたといってもいいでしょう。そしてそれが松田さんの跡を継いで社長となった大塚さん、そして今年、社長に就任した清野さんら現経営幹部に脈々と引き継がれていくことになるのです」「当初は松田さんも、松崎と手を切ろうと考えていたことは間違いない。周囲にもそう語っていましたが、実際に動いたこともありません。しかし結果的に彼は手を切ることができず、ズブズブの関係になってしまうのです」(A氏)

そして'91年9月、山形県「天童ホテル」で開かれたJR東労組「ユニオンスクール」に招かれた松田氏(当時、副社長)は、こう発言するのだ。「松崎委員長と私だけじゃなくて皆さん方と会社全員が、会社側の経営陣がもっと癒着していいはずであります」この松田氏の発言には、A氏も首をかしげる。「松田さんがなぜ、あれほどまでにズブズブの関係になってしまったのか、私自身も定かなことは分かりません。ただ、一つだけ言えることは、女性や金銭問題などのスキャンダルや弱みを握って、徹底的に揺さぶるとというのが、革マル派という組織の常套手段なんです」(A氏)

・・・A氏によると歴代のJR東日本経営陣の周りでは、不気味で陰湿極まりない事件が度々起こっているという。

「あるJR東日本取締役宅のプロパンガスのボンベの周りに、ある日、大量のマッチがバラ撒まかれていました。また、同じ人物のお孫さんが赤ちゃんだったころ、何者かにさらわれ、近くの交通量の多い幹線道路の中央分離帯に置き去りにされていたこともありました。別の幹部宅には鶏の生首が送りつけられ、家族が精神的に参ってしまったという話も聞いてます。

同様の攻撃は、JR東海やJR西日本の経営陣にも向けられました。むしろそちらのほうが凄まじかったのですが、彼らは耐えて、革マル派と手を切ったのです」(A氏)